

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2019. 3. 14 NO. 245

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170

区議会控室 3312-2111(内)2319



区議会第1回定例会 予算特別委員会

高齢者施策の拡充を迫る

区議会予算特別委員会で、高齢者福祉の拡充に
関して質問しました。

配食サービスの廃止、住宅改修 助成の削減をただす

来年度の区の予算書を分析した結果、高齢者分野での、都からの補助金が減額になっていることがわかりました。その要因として、都の補助金を活用して実施している配食見守りサービスの廃止や住宅改修助成等の予算減額にあることをつぎとめました。

主な予算減額、廃止事業

- まちの湯ふれあい入浴(減額)
- 高齢者住宅改修助成(減額)
- 高齢者緊急ショートステイ(減額)
- 配食見守りサービス(廃止)

私は、高齢者人口が増え、高齢者施策の拡充こそ求められているときに、区の姿勢は、高齢者福祉を後退させるものと指摘し、拡充を求めました。区は、利用者の減少などを理由にしましたが、区民が利用しやすい制度へ改善の努力をすべきと求めました。



3月5日
予算特別委員会

他区ではシルバーカーや補聴器 にも助成

杉並区でも実施を提案

都が発行した各自治体ごと
の高齢者施策報告を分析した
ところ、都の補助金を活用し
た同じ事業でも、他区では、
杉並区よりも多くのメニュー
で支援していることがわかりました。

たとえば、目黒区や墨田区などでは高齢者が集
まって食事する会食サービスを実施。新宿区や江
東区などではシルバーカーの購入費助成や補聴器
の支給を行っています。こうした取り組みを紹介
し、杉並区でもメニューの拡充を求めました。



シルバーカー

新生児聴覚検査 補助開始へ

来年度、東京都は、新生児が聴覚検査でリファ
ー(要精密検査)だった場合の支援体制を推進
するとして、保健師の配置などを行う区市町村
に対し必要な経費を支援する事業を実施します。

私は、杉並区でもこの補助事業を活用し、実
施するよう迫りました。区は、都からの説明を
受けて検討すると答えました。

また、来年度から、都内の全
自治体で、新生児の聴覚検査に
費用の一部助成として3千円の
補助を開始すると答えました。



国保料の値上げ中止を！ 歳入増の4.8%で抑えられる

均等割額（介護分含む）の推移

2002年度	2007年度	2012年度	2019年度
35,100	47,100	54,300	67,800

国保料 9年間の負担増（区の資料より）

	年収300万円40歳 夫婦と子ども1人	年収400万円40歳 夫婦と子ども1人
2010年度	173,172円	249,372円
2019年度	366,993円	450,391円
増額分	193,781円	201,019円

来年度の国民健康保険料率の改定議案が提案され、8日の予算特別委員会で質問に立ちました。

均等割額17年連続引き上げ 多人数・低所得世帯が負担増

保険料のうち、所得にかかわらず世帯の人数に応じて課せられる均等割額は1200円値上げされ、6万7800円（介護分含む）となります。単年度で見れば1200円の値上げですが、2002年度以降17年連続の引き上げです。均等割の値上げは、多人数や低所得世帯での値上げ幅が大きいのではないかと指摘に対し、区も認めました。

法定外繰入は継続できる 区も認める

保険料の負担緩和のために行われている一般会計からの法定外繰入について、区は、国や都の方針に従って段階的縮小・廃止を進めています。

私は「繰入は自治体の判断にゆだねるというのが国の公式な見解ではないか」と指摘。区も「法的な縛りはない」と答え、繰入の継続は可能であることを認めましたが、段階的縮小・廃止を進めるという姿勢に固執しました。

値上げの中止を迫る 他会派は値上げに言及せず

質疑のなかで、来年度保険料を値上げせず据え置いた場合の経費は、4億4千万円であることが明らかになりました。

私は「来年度、区は歳入全体で91億8300万円の増収を見込んでおり、このうちの4.8%を回すだけで、少なくとも値上げをおさえることはできるのではないか」と追及。「国保は社会制度であり、区長が「くらしの安全」というのなら、これ以上の国保料の引き上げは行わない。逆に引き下げの努力をすることが、区のとるべき基本方向だ」と値上げ中止を迫りました。

認知症対策 訪問支援の強化を

予算特別委員会で、認知症についても、区の対策強化を求めました。

高齢者の約4人に1人が認知症またはその予備群と言われており、重要なのは早期発見です。認知症が疑われても、病院に行くのを嫌がる高齢者も多く、アウトリーチは非常に重要ですが、区の訪問支援は、年間目標60件に対し、昨年度32件、今年度2月末35件です。規模をさらに伸ばしていくよう求めました。



消費税10%増税 今からでも止められる

消費税10%増税に対する怒りと不安が日ごとに強まっています。「10%増税を中止させるために力を合わせましょう」と商店をまわっています。